

松村通信第 4 7 号

2003 年 1 月 13 日

松村勝弘

外圧頼みの問題点

外圧の伝統 『日本経済新聞』2003 年 1 月 11 日号 1 面で連載記事「日本病を断つ」の第 10 回目で「不全 サヨナラ外圧変革は自ら」というのが掲載されていた。「日本の政権は長い間、外圧を改革促進の"特効薬"として利用してきた」という。ある意味、それは「ずるい」手法だと思う。問題は「ずるい」だけではない。外圧を利用して制度改革を図るとき、魂のこもっていない制度となりがちだという問題がある。この記事でも問題ありと指摘している。

すなわち「2001 年夏の日米首脳会談で、首相の小泉純一郎（61）は『外圧の伝統』を返上した。『米国から言われるのではなく、内部の力で変わる。注文は助言と受け止める』。だが竹中ら新世代の閣僚ですら旧習に手を伸ばす。外圧が伝統なら、自己改革能力のなさも伝統。日本が抱えた病は重い。」

キャッチアップ型会計改革 にもかかわらず同紙のその前日の社説「会計改革、キャッチアップ後の戦略を」では次のように言っている。

その社説の中で「近代化の最終段階へ」という小見出しのもと「会計制度の改革は金融ビッグバン（金融改革）の一環として『連結

・時価・退職給付』を柱とする国際会計基準へのサヤ寄せではじまった。経済環境の激変とも重なった会計基準の改正は、子会社・関連会社を使った隠ぺい体質、含み経営、特殊な雇用慣行などを特徴とする『日本的経営』のゆがみを映し出し、経営改革を促す圧力として働きだした。」

「国際水準へのキャッチアップが課題だった会計制度改革は地味ながらも、金融ビッグバンで最も実効性があったことは間違いない。司法改革と会計改革は、『官』主から『民』主への日本社会の構造変化に必要なインフラ整備であり、明治以来の近代化（キャッチアップ）の最終段階を意味するものともいえる。」

性懲りもない外圧利用 この言い方は結局外圧利用と同じことではないのか。先進国追いつき型発想しかないこの国の「オピニオン・リーダー」の知識不足、見識不足に嫌気がさす。今回の会計制度改変が「進んだ先進国から遅れた日本にもたらされたもの」という、この理解そのものが問題だと思う。すでに日本の制度は十分役に立つものであった可能性は大きい。にもかかわらず、その運用がまずなかったと思う。そこで、何処がまずかったのかの反省をして改善しないかぎり、外在的に制度を導入しても、結局何にもならないと

思う。

第一、国際会計基準を巡る各国の国益のぶつかり合いについての理解がまるで示されていない。この基準を自国に有利に改変させようとする戦略をもってアメリカ、イギリス、そしてEUがしのぎを削り、日本も遅ればせながら「参戦」したけれど、敗退したのは周知のところではないのか。

これまでの制度のどこが悪くてどのように改善すればよいのかということ論ずることなく、国際会計基準がこれだからこれにあわせるべきだという。あるいはそれこそが「近代化」だという。国際基準にあわせたら、日本的経営の「ゆがみ」が映し出されるという、国際基準信奉はどこからくるのか。日本は近代的でなく、遅れていて、進んだ欧米に追いつけ追い越せ、だ。たしかに、そういう考えでここまでうまく行ったのかもしれない。ところがまだ遅れていて、近代化されていない、国際会計基準にあわせて近代化すべきだという。いつになったら近代化できるのか。そんな馬鹿な話はない。

制度いじりをしてそれですまそうという、いわば官僚的マスコミ的（そういえば日経はマスコミだが）発想だと思う。こういう風潮の上で議論をする「会計学者」も出てくるのではないかと思うと、うんざりだ。

外圧利用の限界 外圧を利用しては、いつまでたっても「近代化」できないはずだ。外圧利用という発想自体が近代的ではないというべきだ。にもかかわらず外圧で「近代化」すべきだという。性懲りもない、というのは

このことを言うのだろう。「改革なくして景気回復なし」などと言っているが、外圧利用は「改革」ではない。それは単なる物まねだ。いつまでたっても本物にはなりえない。

日本のこれまでの会計制度のどこが悪かったというのか。会計制度が悪かったのか。運用の仕方が悪かったのか。制度を運用していた人の問題だったのではないのか。もしかりにそういう人の問題だったとすれば、制度を一新してもその制度の担い手が以前の制度の担い手だった（反省なき）人が担うのであれば、問題は残るはずだ。その可能性は大きい。そうであるとすれば、制度いじりをいくらしても、良くはならない。

そういえば、日本の会計学（会計学に限らないが）は輸入学問だ。会計制度まで輸入した。「企業会計原則」が「SHM会計原則」の丸写しであることは周知のところだ。敗戦後、占領下アメリカ的制度を導入しなければならなかったのは仕方がないとしても、その後が問題だ。新しい理論を輸入しただけでなく、制度改革までも輸入しようというわけだ。これで本物の、改革、改善などできるわけではない。先にも述べたように、魂がこもっていない。

メールを見て下さい。又何でも意見を。

皆さんの意見を歓迎します。また、メールで意見交換しましょう（matumura@ba.ritsumi.ac.jp）。メールをよこして下さい。個研 Tel(077) 561-4645FAX 兼用